

昨年度の評価を受けた改善方策について取り組んだ結果について

世田谷区立八幡中学校

【学校生活について】

新型コロナウイルス感染症に対する社会情勢を鑑み、現在も校内での防止対策は日々行いながら生徒の安全を第一と考えたうえで、可能な限り学校生活の更なる充実を目指してきた。

学校関係者評価アンケートにおいて「学校生活は、楽しい。」の生徒の肯定的評価は88.0%、また、「学校行事は、楽しい。」の生徒の肯定的評価は87.0%であり、どちらも高い数値であった。

限られた時間や範囲の中で楽しく、前向きに取り組んでいる姿勢があると捉えることができる。また保護者の同様の項目である「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は86.0%、「学校行事は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は89.0%と、生徒と同様に高い数値であった。長きにわたり、制限のある学校生活を送っていながらも、本校の教育活動に一定の理解を示してくださったことは大変ありがたいことである。

今年度本校で改善・努力した具体的な取組は以下のとおりである。

○生徒の安全を第一に考えた学校運営。

- ・毎日の健康観察（検温）、マスク着用、手洗い慣行。
- ・換気の徹底、教職員による消毒活動、及び全クラスに空気清浄機とCO₂モニターの設置。
- ・施設危険個所の定期的な点検と早期対応

○教育相談の充実

- ・校内特別支援委員会において、専門家をふまえた生徒理解のための研修。
- ・SCや外部機関との連携を視野に入れた対応の検討。
- ・Q-U調査の結果分析。個々の生徒に合った指導方法・対応の確認。

生徒の状況の情報共有。個々に適した指導や働きかけの確認。

○生徒の自治活動の奨励

- ・「上級生を見習う」を基本に、生徒たちが自主的に取り組む活動の助言・支援。

○学習指導の充実

- ・研究テーマを踏まえて、年間一度以上の自己研修授業を実施。
- ・ICT機器の効果的な活用に向けた校内研修の充実

【学習指導について】

学習活動においては、コロナ不安による自宅待機をしている生徒に対するオンライン授業の実施等、教職員の努力と保護者の理解を得ながら学びを止めない学習指導を進めてきた。

また、GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT機器を効果的に活用した授業展開を行うとともに、指導技術向上に向けての校内研修を実施してきた。

このような状況の中、学校関係者評価アンケートにおいて「先生は、映像やタブレットなどICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」の生徒の肯定的評価は86.0%となり、昨年度の同様の項目と比べ、さらに5%上昇している。また、協働的な学びの充実を図ったことで、「自分で考えたり、友人と考えたりする時間を授業の中でとっている。」の生徒の肯定的表は93.0%と高い結果となり、

昨年度の同様の項目と比べ、こちらも５％上昇している。教員の授業改善の努力が生徒に伝わっていることが分かる一方で、保護者の同様の数値は５２．４％、５５．２％であり、生徒との結果に開きがある。これは、保護者が授業を直接観る機会がないことが一因と考えられる。同質問での「分からない」の回答が約３０％となっている。公開授業は実施されてきたが、数値の変化が昨年度と変容が見られなかったため、令和５年度は改善に向けての方策を講じていく。

また、学び舎の教育活動をできることから再開した。今年度は２回の合同研究授業、中学校での小学校体育の実施、小学生を招いての部活動体験を行った。学校関係者評価において「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。」の肯定的評価は９０．０％となり、昨年度の同様の項目と比べ、５４．６％上昇した。一方で生徒に対する同様の項目は、昨年度と比べて１６．２％上昇しているが、肯定的評価は３３．０％となっている。生徒の意識ではまだまだ交流できていないということが読み取れる。令和５年度の取組を、更に充実させたものにしていく。

今年度本校で改善・努力した具体的な取組は以下のとおりである。

○校内研修

- ・教員の授業力向上、ＩＣＴ機器の活用、オンライン授業 他。
- ・全教員による PISA 型読解力の育成に向けた研究授業の実施。

○少人数・習熟度別学習指導（数学・英語）、ティームティーチング（理科・英語）による授業。

○授業時間以外の学習の機会の提供

- ・放課後補習、土曜講習、検定対策講習、教師による朝・放課後の個人学習指導

○学び舎小学校との連携

- ・学び舎研修会

共通テーマ「PISA 型読解力の育成」を軸にした、研究授業及び研究協議会の実施。

- ・学習習得会議の実施。

学習習得確認調査の結果を基にした小中の枠を超えた、学習課題の検討と指導方法の共有。

○家庭学習をする生徒のためのオンライン学習指導。

【地域との連携】

地域との連携については未だ十分に行うことができていないのが現状であるが、地域の方々の支援をいただきながら、いくつかの地域行事を実施することができた。そのため、地域との連携について（保護者）の項目では、「地域の人や施設を教育活動に生かしている。」の肯定的評価は７５％、「地域の活動等に協力的である。」の肯定的評価は８２％となり、昨年度と比較してそれぞれ１９．５％、１７％上昇した。今後も社会情勢を鑑みながら、可能な限り地域との連携をとり続けていく。

以下は今年度学校として取り組んできたり、支援を受けたりしたことである。

○Ｃ組家庭科授業支援

○地域と協働した避難所運営の実施

○２つの地域行事にボランティアとして生徒が参加

○検定対策講習での受付作業や検定の試験監督業務。

○部活動ステップ活性化委員会での各部活動の現状確認報告及び部長との懇談会。

○STEP 及び部活動における指導。